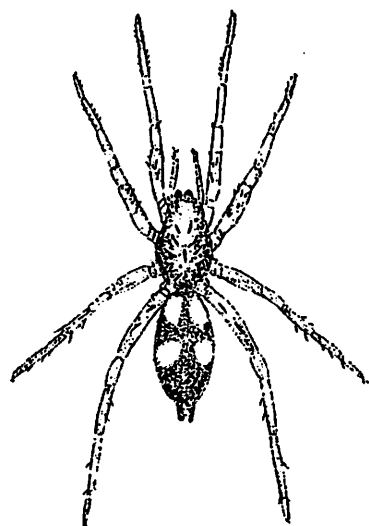


東京蜘蛛談話会誌

KISHIDAIA

No. 14



東京蜘蛛談話会

東京都日野市豊田1,896 萱嶋泉方

PHONE : 0425 - 81 - 7128

神奈川県小倉山付近のクモ

海城学園生物部 新 海 明

「小倉山」ちよつと聞いた事のない山ですが、この山は武蔵野台地の南、相模川支流に沿つて位置する、標高約300mの小さな山である。この山の周辺には東京近郊では数少なくなつた自然林が僅かながら残つており、私は昨年(1969)11月9日及び12月29日の2回にわたりこの山に真正蜘蛛類の調査に行き、その結果19科51種のクモが採集できましたので、その目録を発表致します。

尚、採集にあたり御協力をお願いした海城学園OB飯塚俊太郎氏、及び海城学園生物部岡田昭八氏、鴻巣泰氏に厚くお礼申し上げます。また現在までの進奈川県における他の目録については、KISHIDAIA 6 「川崎市王禅寺付近のクモ」に詳細な説明がありますので参照されたい。

目 録

- | | |
|------------------------------------------------|-------------|
| I CTENIZIDAE | |
| 1. <i>Ummidia fragaria</i> (DOENITZ) | キノボリトタテグモ |
| II ATYPIDAE | |
| 2. <i>Atypus karschi</i> DOENITZ | ジグモ |
| III ULOBORIDAE | |
| 3. <i>Hyptiotes affinis</i> BOES. et STR. | オウギグモ |
| IV SEGESTRIIDAE | |
| 4. <i>Segestria komatsuana</i> KOMATSU | コマツエンマグモ |
| V PHOLCIDAE | |
| 5. <i>Pholcus crypticolens</i> BOES. et STR. | ユウレイグモ |
| 6. <i>Spermophora</i> sp. | ムツメユウレイグモ |
| VI TERIDIIDAE | |
| 7. <i>Anelosimus crassipes</i> (BOES. et STR.) | アシプトヒメグモ |
| 8. <i>Ariamnes cylindrogaster</i> SIMON | オナガグモ |
| 9. <i>Conopistha fur</i> (BOES. et STR.) | フタオイソウウロウグモ |
| 10. <i>Rhomphaea sagana</i> (DOEN. et STR.) | ヤリグモ |
| 11. <i>Theridion chikunii</i> YAGINUMA | バラギヒメグモ |
| 12. <i>T. octomaculatum</i> BOES. et STR. | ヤホシヒメグモ |
| 13. <i>T. rapulum</i> YAGINUMA | ギボシヒメグモ |
| 14. <i>T. tepidariorum</i> C. KOCH | オオヒメグモ |
| VII LINYPHIIDAE | |
| 15. <i>Doemitzius puruus</i> OI | コデーニツツサラグモ |
| 16. <i>Linyphia albolimbata</i> KARSCH | ヘリジロサラグモ |
| VIII MICRYPHANTIDAE | |
| 17. <i>Asperthorax communis</i> OI | ザラアカムネグモ |
| 18. <i>Erigone prominens</i> BOES. et STR. | ノコギリヒザグモ |
| IX ARGIOPIDAE | |
| 19. <i>Araneus uyemura</i> YAGINUMA | ヤマオニグモ |

KISHIDAIA, No. 14, 1970, Feb.

20. <i>Chorizopes nipponicus</i> YAGINUMA	ヤマトカナエグモ
21. <i>Cyclosa monticola</i> BOES. et STR.	ヤマゴミグモ
22. <i>C. sedeculata</i> KARSCH	ヨツデゴミグモ
23. <i>C. laticauda</i> BOES. et STR.	ムツデゴミグモ
24. <i>Nephila clavata</i> L. KOCH	シヨロウグモ
X TETRAGNATHIDAE	
25. <i>Tetragnatha squamata</i> KARSCH	ウロコアシナガグモ
26. <i>Pachygnatha clercki</i> SUNDEVALL	アゴブトグモ
27. <i>Dyschiriognatha tenera</i> (KARSCH)	ヒメアシナガグモ
XI UROCTEIDAE	
28. <i>Uroctea compactilis</i> L. KOCH	ヒラタグモ
XII ARGYRONETIDAE	
29. <i>Cybaeus nipponicus</i> (UYENURA)	カチドキナミハグモ
XIII AGELENIDAE	
30. <i>Agelena limbata</i> THORELL	クサグモ
31. <i>A. opulenta</i> L. KOCH	コクサグモ
32. <i>Cicurina japonica</i> (SIMON)	コタナグモ
33. <i>Coelotes exitialis</i> L. KOCH	ヤチグモ
34. <i>C. antri</i> (KOMATSU)	ホラズミヤチグモ
35. <i>Tegenaria corasides</i> BOES. et STR.	ヤマタナグモ
XIV PISAURIDAE	
36. <i>Dolomedes sulfureus</i> L. KOCH	イオウイロハシリグモ
37. <i>Pisaura lama</i> BOES. et STR.	アズマキシダグモ
XV THOMISIDAE	
38. <i>Oxyptila decorata</i> KARSCH	キハダカニグモ
39. <i>Philodromus spinitarsis</i> SIMON	キハダエビグモ
40. <i>P. flavidus</i> SAITO	キエビグモ
41. <i>Thomisus labefactus</i> KARSCH	アズチグモ
42. <i>Xysticus croceus</i> FOX	ヤミイロカニグモ
XVI CLUBIONIDAE	
43. <i>Clubiona jucunda</i> (KARSCH)	ヤハズフクログモ
44. <i>C. vigil</i> KARSCH	ムナアカフクログモ
45. <i>Itatsina praticola</i> (BOES. et STR.)	イタチグモ
46. <i>Phrurolithus komurai</i> YAGINUMA	コムラウラシマグモ
47. <i>P. nipponicus</i> KISHIDA	ウラシマグモ
XVII ANYPHAENIDAE	
48. <i>Anyphaena pugil</i> KARSCH	イズツグモ
XVIII HETEROPODIDAE	
49. <i>Heteropoda forcipata</i> (KARSCH)	コアシダカグモ
XIX CTENIDAE	
50. <i>Anahita fauna</i> KARSCH	ジボグモ
51. <i>Stemmops nipponicus</i> YAGINUMA	スネグロオチバヒメグモ

標本保管法私案

松 本 誠 治

クモを標本にする時は、一般に70%アルコール・液浸標本として保存するのですが、昆虫標本ならば虫ピン1本で、1個体1個体のデータがとめられるのに、アルコール漬けの標本で1個体1個体を昆虫のように別々にデータをつけて標本としたのでは、保存用のガラス管に莫大な金額と容積をとられてしまいますし、又、安全の為に二重漬けにすると、それらは倍加します。昆虫ならば、三角紙にデータを付けて入れておくだけでも標本としての価値は、ドイツ型標本箱に入れたのと変りはないと思うのですか、クモの場合、どんなものに入れようとも、個体別にしようとするれば同じ数だけのガラス管とそれに見合った容積を覚悟しなければなりません。私も以前は、1個体1瓶の標本作りを守っていたのですが、上記2つの理由から諦めることとなつてしまいました。それ以来、いろいろな方法にかえてみたのですが、今では一番不精な保存方法に落ち着きました。それは、採集地と採集日の同じものを1瓶にまとめる、つまり1データ1瓶という方法です。具体的に言いますと、先ず採集して来たものを一時的にひとまとめにしておきます。そして同定する時に保存用の瓶を2種類用意します。1つは種名のわかつたもの、1つは種まで同定出来なかつたものを保管するものです。同定する時にはノートを用意して、1ページ1データを原則に同定したものから順に記録していきます。1個体に必ず1つの番号をつけていけば、最後に採集個体総数が出て来ますし、大きめのノートを使えば余白にフィールド・ノートから転記もできますし、又、形態の特徴も適時記載できます。このようにして種まで同定してしまつたクモは、まとめて二重漬けにして、その瓶に記号をつけておくといつでもとりだせます。例えば、8~10本をひとまとめにして大瓶に入れ、それに「A」と書いておいて、ノートの肩に「A」と記録しておけば、その大瓶の中から該当する瓶をラベルをみながら探せばよい訳です。

しかし、これだと、データからはすぐにとり出せますが、或る種を一匹とか、あるいは保存しているもの全てとかいう時は、不便でなりません。これは標本数が多くなればなる程、大問題になつてきます。そこで、私は種別のカードを作りました。ノートだととりはずしができず、記入した順ということで目録をつくる時まとめるのに苦勞しますので、カードを使うことにしたのです。それもパンチカードを使うと非常に便利です。勿論、個人で使うのですからコンピュータ用のものなど無用です。「科学論文の書き方」にも出ていますホールソート・カードを使うのです。これは、穴に切り込みをつけて針をさしても落ちるようにしたのを「on」、穴に切り込みをいれないで落ちないままでおくのを「off」とした二進法のものでありますから、その分類できる数は、全ての穴の組み合わせによつて選び出すとすると2のn乗（nは穴の数）となる訳ですが、クモの種類にしても、採集地にしても、2の228乗（私の使用しているのが288穴のカード）もある訳もなく、又、1枚のカードを選ぶのに228回同じ動作をするのも無駄ですので、4~5個の穴を通すだけで希望のカードが選べるように工夫した方がよい訳です。私はカードの説明書にあるものをそのまま利用してしまつたのですが、設計をうまくすれば、少ない穴数で多くの情報を組み込めると思います。私は12個の穴を使つて、1から99までの番号を3本の針で選出できるようにして科の分類をしています。カードを科ごとに並べる時、すなわち目録作成の時に便利だと思つたからです。科に番号をつけて選ぶ訳です。クモの場合は科名そのものを選ぶようにするよりも簡単です。又、10穴2段を使用して属名を、同様に種小名を選ぶのに10穴2段を使つています。属名に番号なんかつけられませんし、学名は覚えられますから、属名の頭から2字と、種小名の頭から2字を組み合せて、5本の針で選出しています。原則としては8本必要ですが、5本でも何とか偉いカードは出て来ます。又、余分に出て来たカードがあつても、あ

KISHIDAIA, 1614, 1970, Feb.

るいは同じ文字の為に出来ても（例えば、シマゴミグモとオオトリノフンダマシ）目で選んでしまえばよい訳です。和名も大切なので行と段とにわけて、18穴2段から選べるようにしています。カードには、ノートに記録した種名を、その採集地・採集日・雌雄・成体幼生及び個体数を、チェックしながら転記すればよいのですから暇なときにできます。このようにしておくとカードをばらばらにほうりこんでおいても、必要な時に必要なクモの採集データを取り出せますし、それから保存してあるクモの標本もすぐに見つけることができます。ホールソート・カードの魅力は、1枚のカードで多くのデータが記入出来、必要な時に取り出せ、いくらでも枚数を増やせることにあります。

私は現在、千葉県を中心に採集しているので、いつも行く所はその項目を作っておくと、そこで何がとれているかを知るのに便利です。例えば、千葉県安房郡江見町上区近辺では、23科71属115種のクモが1970年4月3日現在までで、採集されていることが、24回の選出操作と、15分程の整理とによつてわかります。文献の整理もこれと同様に出来ますし、その文献の内容もカードに記入しておけば抄録ノートの代用にもなります。ただ初めの設計をうまくしないと、改善する時に苦労するのは、やはり「コンピュータと同じ二進法を使用する際のソフトウェアの問題なのだな」と思います。理想的なソフトウェアを設計して、学会からでも売り出してくれると、統一されてとても便利になると思っています。

談話会ノートより

第46回 1970年2月11日(水) 1:50 P.M.～

於 植村先生 宅

出席者：植村先生、荻嶋先生、佐藤、大河内、新海、石井、
国見、小林、小野、石山、榎田、松本、

1. 大河内氏の卒論を回覧する。植村先生、非常に感心なされていた。奄美大島の endemic species はアマミアズチグモ、アマミドクグモの2種。
2. 図は大きいとDetailにまで気を配るようになるからよい。小さいと見逃してしまう。
3. 新海氏の発表論文(私学教育研究所紀要)を植村先生に贈呈。
4. 植村先生より「オヒキグモ *Arachnura* sp. について」の論文をいただいて、購読を受ける。
 - *Arachnura* spp. はArtifactの問題を無視しての記載であるので1種ではないか?
 - 台湾に比べると、眼方形やその他で高地のものとは一致する。
 - 幼形成熟の例を多数掲げて説明していただく。
 - オヒキグモの個体群密度の薄さから「隔離」による進化の問題の絶好の材料である。
 - 台湾ではオヒキグモは群棲(密度は高い)(荻嶋先生より)
5. オオヒメグモでもHabitatによる形態変異は大きいのではないか?(家屋と庫など)
6. 植村先生より、ソ連のクモの絵本を回覧。その他多数の文献。(オニグモの変異、コサラグモ生態関係 etc)

7. NHKの「自然のアルバム」のクモの撮影を4月頃より開始する。
8. 松本の図の描き方を批評していただく。
図の描き方：毛は外側長く、内側短くすると腹部の丸味ができる。
9. 学会事務分担の件
10. 会頭選挙の問題
11. ATYPUSの編集引き受けの件

(記 松本誠治)

KISHIDAIA 第14

1970年2月20日 印刷

1970年2月21日 発行

東京蜘蛛談話会

〒191 東京都日野市豊日1896

登 嶋 泉 方

PHONE 0425(8)7128
